

みすゞがらす 12号

平成19年3月12日発行

「今年度の成果から」

－ 整理作業と発掘調査 －

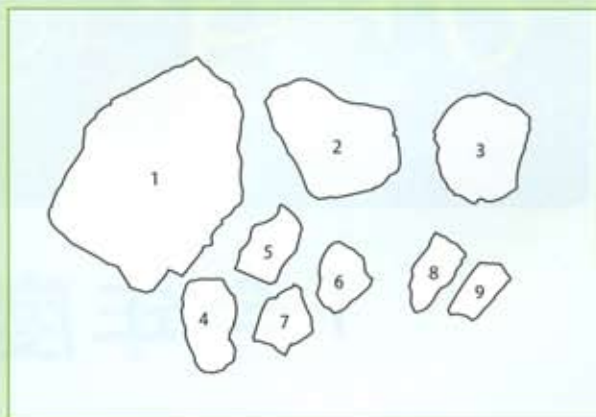


駒形遺跡出土の黒曜石（原石）

表紙の解説

こまがた 駒形遺跡（茅野市）

表紙の黒曜石は駒形遺跡から出土した原石です。ブロック状の原石が大半ですが、8・9のような板状の原石も見られます。1は長さ13cm、幅11cm、重さ1,340g、両手で抱えて持つぐらいの大きさです。しかし、この大きさの原石は、1点しか出土しませんでした。一番多く出土した原石は4～7の大きさで、長さ5cm以下、幅3cm以下、重さ30～60g程のものです。この大きさは石鏃を中心とする石器作りには、ちょうど良い大きさであったと考えられます。



縄文時代前期の黒曜石のムラ

駒形遺跡では発掘報告書の刊行に向けて、整理作業を実施してきました。遺跡が諏訪星ヶ台、和田峠といった黒曜石原産地に近いこともあって、平成15・16年の調査では多くの黒曜石が出土しました。石器類の合計57,193点中、97%にあたる55,325点が黒曜石製です。その中の8,195点について、産地同定分析を実施したところ、75%が諏訪星ヶ台産で、和田峠産は20%、蓼科冷山産が3%含まれていました。

多くの黒曜石が持ち込まれた駒形遺跡では、石鏃を中心とする石器作りが行われており、石鏃作りの工程が明らかになってきています。

発掘報告書では、黒曜石の石器作りが行われたムラの様子を、明らかにしていく予定です。

かまい あみだどう 構井・阿弥陀堂遺跡（茅野市）

永明寺山の南麓に広がるさまざまな時代のムラ



構井・阿弥陀堂遺跡は、茅野市街地の中心に位置します。調査では縄文時代～中世にかけてのさまざまな時代のムラが見つかりました。

現在、構井・阿弥陀堂遺跡は、来年度の報告書刊行に向けて整理作業を行っています。

発掘調査で出土した遺物や発見した遺構には、昔の人のいろんな情報が隠れています。その情報をできる限り引出すために、遺跡から持ち帰った出土品や写真・図面などを、さまざまな角度から分析・検討します。

そして、出来上がった報告書は出土品とともに保管され、公開されます。

速報！！「弥生ムラと巨大住居」

にしちかつ 西近津遺跡（佐久市）

今から 1800 ～ 1900 年前の弥生時代終わり、低地に面した南斜面に大きなムラが営まれていました。みつかった 50 軒の竪穴住居跡は重なりあっている例が多く、幾世代にもわたって続いたムラであったことがわかります。

ムラの高台には巨大な竪穴住居が建てられていました。その住居は南北 18 m、東西 9.5 m の長方形で、床面積が 153 m²（畳 92 枚分）という広さです。床面には柱を立てた穴が 4 ヶ所掘られています。穴の長さは 2 m の楕円形で、深さが 1.1 m もあります。こうした状況から上屋は頂部までの高さが 8 ～ 9 m という、今の三階建ての家に匹敵する規模を予想しています。

かつての佐久平にそびえていたこの巨大な住居、またそれを支えたムラとはいったいどんな役割があったのでしょうか。今後の分析で明らかにしていきたいと思えます。



70 人に囲まれた弥生の巨大住居跡

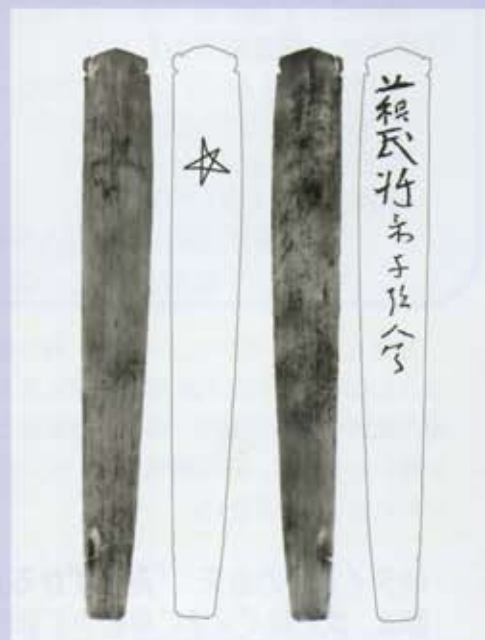
県内初！「蘇民将来符」^{そみんしょうらいふ} 木簡^{もっかん}

ひがしじょう 東條遺跡（千曲市）

千曲市八幡の東條遺跡では鎌倉時代後半から室町時代頃（13 世紀後半から 14 世紀）の「蘇民将来符」が発見されました。大きさは、長さ 22.7cm、幅 2.8 cm、厚さ 0.1 cm で、形が薄く細長い板状をしています。書かれた文字は表面に「蘇民将来子孫の（家）□」、裏面に陰陽道で「セーマン」と呼ばれる星（五芒星）が墨書されています。「蘇民将来符」木簡は山形県から兵庫県の 46 遺跡で 84 点が出土していますが、県内では初めての資料です。

蘇民将来説話に由来する蘇民信仰は、現在でも、上田市信濃国分寺の八日堂縁日で頒布される六角柱をした木製の蘇民将来符にいきづいています。買い求めた蘇民将来符は無病息災、開運、招福を願い、家の門口や神棚などにまつられています。また、出土した木簡はこの信仰についての県内最古の事例ともなりました。

なぜ、この遺跡から出土し、どのように使われたのか検討中ですが、この木簡は中部地域における庶民信仰の歴史解明に重要な資料になると考えています。



埋文情報

『長野県の遺跡発掘2007』 開催のお知らせ

今年度、当センターが県内各地で行った調査の成果をいち早くご覧いただくため、恒例の速報展を開催します。県内初出土の「蘇民将来符」木簡などの新発見遺物のほか、弥生時代の豪邸の大きさを実感できる再現展示や、体験広場、スライドショー、クイズなど、“見て・触って・感じて・考える”仕掛けが盛りだくさんです。ぜひ、お出かけ下さい。

長野県立歴史館

2007年3月17日(土)～5月13日(日)
休館日：3月19日(月)、22日(木)、26日(月)、4月2日(月)、23日(月)、5月7日(月)

入場料：一般300円(団体割引、学生料金有、なお土日祝日は小中高生無料、4月は7・8・14・15の土日に限り大人も無料です)

【講演会・調査報告会】

日時：4月14日(土) 13:00～16:00
会場：長野県立歴史館 講堂
報告会> 13:00～14:20
講演会> 14:30～16:00
金田章裕氏 京都大学教授
(仮題)「古代・中世の村落」

伊那文化会館

2007年7月5日(木)～25日(水)
休館日：7月9日(月)、17日(火)、23日(月)

【講演会・調査報告会】

日時：7月14日(土) 13:00～16:00
会場：伊那文化会館小ホール
報告会> 13:00～14:20
講演会> 14:30～16:00
笹本正治氏 信州大学教授
(仮題)「高遠城とその城下町を考える」

『埋もれていた信州遺産の発見』

- 長野県埋蔵文化財センター 25年の歩みから -

開催のお知らせ

当センターは、これまで県内各地のおよそ300の遺跡を調査し、遺跡からの出土品(遺物)は箱数に換算しておよそ25,000箱になります。

今回の展示は、膨大な資料の中から厳選した資料を展示し、旧石器時代から中世に至る当時の人々の生活や心の軌跡に思いを馳せていただきたいと考えます。私たちが生活していく上で、より便利でより安定した生活を送ろうとするために、これまでに失われてきたものや今に継続しているものを振り返るきっかけになればと考えています。

この機会に是非、足を運んでご覧いただくのと同時に、発掘作業に参加していただいた皆さんの旧交を温める機会となれば幸いです。

会場：長野県立歴史館企画展示室
期間：2007年5月19日(土)～7月1日(日)
休館日：5月21・28日、
6月4・11・18・25日



今年も体験広場を実施します。

暖冬とはいいながら、水温み、梅の便りが聞かれるようになると春の訪れに喜びを覚えます。今回、昨年度の遺跡の調査成果の一部を、速報展というかたちで公開いたします。春の陽光の中、ぜひ信濃の歴史に会いにいらしてください。

(財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007
長野市篠ノ井布施高田963-4
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157
E-mail maibun@grn.janis.or.jp
HP <http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>

※タイトルの由来：「みすずかる」＝御簞刈る。

御は、次に続く文字に尊敬や丁寧の気持ちを込める意。簞(すす)は篠竹(すすだけ)の意。刈るは、刈り取るの意。篠竹が信濃に多く採れることから、地名の信濃に係る枕詞(まくらことば)として慣用される。